



— 口腔機能低下症の診療を実施している医院の事例を紹介します —

「口腔機能低下症」は、う蝕や歯の喪失など従来の器質的な障害とは異なり、いくつかの口腔機能の低下による複合要因によって現れる病態。7つの下位症状のうち3項目以上該当する場合に「口腔機能低下症」と診断されます。詳細は日本歯科医学会発信の「口腔機能低下症に関する基本的な考え方」をご参照ください。

▶説明用スライドを用いて機能訓練を実施 早期発見で全身のフレイル予防を歯科医院から

当院では、セミナー受講時の資料などを基にスライドを作成し、定期健診の患者さんに口腔機能を維持することの重要性を説明し、早期介入を目指しています。問診に家族構成や食事など生活環境に関する内容を加え、患者さんの状況に合わせて管理指導を実施しています。

言えますか？早口言葉

肩固かったから、買った肩たたき高かった。

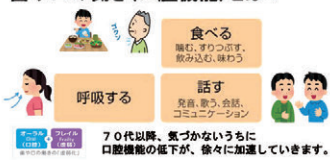
口腔機能の低下を気付かずにいると・・・



【説明用スライド】
(抜粋)

口腔機能低下症の説明や機能訓練の方法をまとめている

歯や口の動き(口腔機能)とは？



症例



患者：78歳 女性

定期健診の患者さん。ムセなど自覚症状はないが歯科衛生士の「今の状態を把握するため検査してみませんか」との提案から検査を実施。

Point! 患者さんの「お話好き」という性格に合わせて、実施してもらえそうな訓練を選択

〈検査当日〉舌口唇運動機能低下・低舌圧の2項目が該当。口腔機能低下症は非該当だが、早期に介入しフレイル予防を目指すため、**あいうべ体操・ペコぱんだ(Sピンク)**、**軟らかめ・舌鳴らし**を各訓練1日30回指導。

〈7か月後〉何度も言わないと行動に移してもらえない傾向にある方なので、メンテナンス来院毎に、フレイルのリスクやフレイル予防を怠らないよう声掛け。初めのうちはなかなかトレーニングも定着しなかったが、最近は自ら「ペコぱんだ やってる」等と話してくれるようになった。舌口唇運動機能は回復、低舌圧は改善傾向が見られた。機能が維持されているため、引き続き機能訓練を指示。

Point! 患者さんに合わせて訓練を選択。該当項目が多い場合には「あいうべ体操」のみ指導することも

【当院で実施している管理、機能訓練内容】

下位症状	機能訓練、指導内容
口腔衛生状態不良	舌磨き、歯磨き、定期的なクリーニング
口腔乾燥	唾液腺マッサージ、水分補給
舌口唇運動機能低下	あいうべ体操、早口言葉、無意味音音節連鎖
低舌圧	ペコぱんだ、舌鳴らし、舌回し
咬合力低下 咀嚼機能低下	歯科治療、義歯の調整
嚥下機能低下	舌鳴らし、長めのガラガラうがい、あいうべ体操

Point! 簡単にできる舌口唇運動機能だけを行い、機能低下に気づいてもらう



モニターでスライドを表示し定期健診患者さんへの説明の様子。機能訓練では「歯磨きのたびに10回」、「毎日の検温時に」など具体的な実施のタイミングを提案しています。



メンテナンスで長く患者さんと関わる中で、その患者さんが歳を重ねるごとにカリエスや歯周病予防だけでなく、口腔機能の管理の重要性や必要性に気付かれ、院長はじめスタッフとともに勉強し、口腔機能検査を実施するようになりました。自覚症状がない患者さんにも声をかけ、それぞれの数値を患者さんと共有し、オールフレイル予防のために出来るトレーニングから始めてもらっています。また、当院には栄養士の資格を持つトリートメントコーディネーターが在籍していますので、患者さんの状態を共有しアドバイスをもらうなど、全身のフレイル予防にも力を入れています。人生100年時代に向けて、患者さんとともに歩めるよう、これからも口腔機能検査を活かしていきたいと思っています。(歯科衛生士 島村 彩さん)

※2021年11月現在の情報です。

